

北極圏旅行記 2017-2018 冬 (11)

～12/29 スノモ体験・12/28 樹氷とオーロラ～
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

夏の北極圏には楽しみが山ほどある。夏まつり、ト
レッキング、ユトロン(野生の黄色いイチゴ)狩り・・・
インランズバーナン(内陸鉄道)の旅・・・ドライブ
も、ほとんど尾瀬の中を走っているようだ。



「インランズバーナン(内陸鉄道)のモスコセル駅」
40分停車。ホームがそのままレストラン。2013夏



「ユトロン狩り」湿地の遊歩道でいくらかでも採れる。
生でもおいしいが、電子レンジでジャムにすると良い。

ところが、冬の北極圏にはあまり楽しみがない。オー
ロラは別格だが、旅行者が必ず見られるわけではなく、
この年末年始も、北欧のオーロラツアーに参加した人
は、悪天候でほとんど見られなかったらしい。あとは
犬ぞり、トナカイぞり、ゴムぞりなどがあるが、ゴム
ぞりを除いて、非常にお金がかかる。その中でも比
較的手ごろなのが、スノーモービル体験だ。

今回宿泊した「ラップランド・スノー・キャビン」
のオーナーのリッカルド(リチャード)さんは、ス
ノーモービル乗りの名人で、マシンも何台か所有してい
る。名人といっても、このあたりの人は、男性でも女
性でも大抵は乗りこなせて、自転車がわりにその辺を
走っている。森の中に赤い×印の立て看があったら、
そこがスノモのコースだ。



事前に問い合わせたら、旅行者でも体験可能とい
うことだったので、お願いすることにした。この日は気
温が氷点下10℃と「暖かかった」ので、スノモ日より
なった。リッカルドはそりを引っぱって、キャビン
まで迎えに来てくれた。



なかなか立派なスノモである。ものすごい馬力があ
るらしく、最高時速は100km以上だという。私が四
半世紀前に北海道のクッチャロ湖で乗った、ポンコツ
のスノモとは大違いだ。私は何度も乗ったことがある
ので、今回は同行者だけがチャレンジすることになっ
た。一人はリッカルドの後ろ、もう一台にもう一人が
乗って、あとを追うという方式だ。途中で後部座席と
運転を交代するという。



リックアルドの着ていたベストが、警察官のようだったので、まるで雪上で連行される犯人のような有様だった。しかし約2時間、森や雪原を走り、焚火をしてソーセージグリルなど、楽しかったようだ。



スノモが帰ってくる頃には、すっかり暗くなっていた。今夜はよく晴れているが、月が出ている。果たしてオーロラは見えるだろうか？



月の形（満ち欠け）は、世界共通だ。しかし、動きは日本で見る月とは大きく異なる。



（3ページ目に拡大写真あり）

前の日のオーロラの話に戻ろう。オーロラ観望ポイント（AFOポイント）で撮影したものである。スノー・キャビンから車で10分ほどの場所だ。樹氷にかかるオーロラが非常に美しかった。



（3ページ目に拡大写真あり）

月夜はオーロラは見えにくい。しかし月光に照らされた樹氷は、非常に美しく写る。この写真は、北斗七星と樹氷を一緒に撮った作品だ。



地元のスウェーデン人と一緒に撮った集合写真。体が透き通っているのは、オーロラの神通力である。とても良い思い出になった。



樹氷、北斗七星、オーロラ
スウェーデン・ノルボッテン州・マスグンス村
2017,12,28 / C.Tanaka



樹氷と北斗七星
スウェーデン・ノルボッテン州・マスグンス村
2017,12,28 / C.Tanaka